



みどり

令和6年1月10日
調布市立緑ヶ丘小学校
校長 鳥居 圭

E-mail midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

「君たちは知っているかい？『龍は本当にいる』ってことを」

Do you know that dragons exist?

校長 鳥居 圭

1月1日、新年を迎え心機一転、前向きな気持ちでスタートを切ろうとしていた矢先に大惨事の報に接しました。本当に心が痛みます。能登半島地震で被害に遭われた方々に心からお悔やみ申し上げます。一日も早い復興と穏やかな日々が訪れることを心から願っております。飛行機事故も衝撃的でした。今の時代、平安な三が日さえもないのかと考えてしまう日々ですが、私としては引き続き子供たちに明るく未来を語っていく、という教育者としての使命を果たし続けていきたいと思っています。

さて、今年の干支は辰、いわゆる龍の年です。細部に違いはあるものの、東アジアからヨーロッパまで、地球上の広い範囲でこの「ドラゴン」という人間による想像上の動物が認知されていることは興味深いですね。

そんな龍にまつわる話は、それこそ世界中に枚挙にいとまがないほどたくさん存在しますが、その中から、12年に一度のこの機会をいただき、ひとつご紹介したいと思います。



ブータン王国という国があります。私は以前、このヒマラヤの小さな国で咲いている、というブルーのポピーの写真を見せてもらったことがあり、それ以来、いつの日か訪れたい国の一つとなっています。自然との共生、ゆっくりとした時の流れ、質素だけれど、平和で心豊かな暮らしがある国。97%の国民が「幸せ」と答える国。ブータンの国旗には龍が大きく描かれていますが、それはブータンがチベット語の方言で「龍の地」として知られているからだそうです。

そのブータンのワンチュク国王が来日した際、訪れた場所があります。そこは、東日本大震災による大地震、津波の被災の爪痕が残る、福島県の小学校です。多くの子供たちが、誰かしら近い人を亡くしたばかりだったり、仮設住宅で暮らしたりしていた頃のことです。そんな子供たちに向かって、ワンチュク国王が話しはじめます。

皆さんは、龍を見たことがありますか？私にはあります。王妃もありますね。

龍は何を食べて大きくなるのか知っていますか？龍は、経験を食べて大きく成長していくのですよ。

私たち一人一人の中に「人格」という名の龍が存在しているのです。その龍は、年を取り、経験を食べるほど、強く、大きくなっていきます。人は、経験を糧(かて)にして、強くなることのできるのです。そして何よりも大切なことは、自分の龍を鍛(きた)えて、きちんとコントロールすることです。この「龍」の話を、私がブータンの子どもたちにする時には、同時に、「自分の龍を大切に養いなさい、鍛錬しなさい」ということを言っています。わがままを抑えることや、感情をコントロールして生きることが大切なのです。

このように、ワンチュク国王は、子供たちに、被災という悲惨な経験をしたがゆえに、自分の心の龍が鍛えられる。人は、どんな経験も糧にして強くなることのできる。というメッセージを伝え、励ましてくださいました。龍は誰の心の中にもいます。どんな経験を積み重ね、どのように自分の龍を育てるかは、自分次第です。子供たちも、そして我々大人も、心豊かな経験を大切に、自分らしくたくましく、龍を育てていきたいものです。

夢と希望をもち、それぞれの龍を育てよう。すばらしい一年になりますように。